

囲炉裏のある明治・大正のくらし 大庄屋記念館



文化財ミニパンフ

市指定文化財 旧長島家住宅 昭和54年3月7日指定 敷地 3,718 m²

大庄屋記念館は、養父市小城集落の裏山の高台にあります。

江戸時代の天保9年（1838）から嘉永5年（1852）までの15年間、出石藩18ヶ村の大庄屋をつとめ、苗字帯刀を許された長島善右衛門にちなんで大庄屋記念館と呼んでいます。昔の生活が体験できる歴史民俗資料館です。昭和49年11月に養父町民俗資料館として開館し、平成16年4月に養父市立大庄屋記念館に名称を変更しました。

長島家住宅は敷地 3,718 m²の中に母屋・客殿・土蔵などの歴史的建造物が群として残っています。明治14年に母屋が改造されましたが、内蔵の窓金具には寛政11年（1799）の銘が残ります。客殿は幕末期に建てられた平屋建ての建物を大正時代に二階建てに増築しています。このため現在の屋敷は、大正時代に最盛期を迎えた豪農が生活する建物群として完成されています。昭和30年代以降の現代的な改修をうけることなく、建物が良好に保存されていることから養父市指定文化財「旧長島家住宅」となっています。

住宅は部屋数21室、風呂2ヶ所、便所5ヶ所があり、迷路のように複雑な住宅です。玄関前には山梨の古木があります。

母屋の表座敷の前には大正時代に整備された庭園があります。上箇所から藪崎集落を一望でき、築山と池泉を整備した池泉観賞式庭園となっています。庭の池の底に埋められている甕は、江戸時代に作られた越前焼きの甕です。水は母屋の床下を通過して運ばれていました。

客殿の一階には、六畳間が3室、四畳半が1室、茶室が1室あり、幕末から明治時代に活躍した小林礪川、手辺村の大庄屋をつとめた長沢蓼州の絵もあります。二階には15畳の大広間と9畳の控えの間があります。外からみると漆喰と多くの窓ガラスを使った贅沢な建物であることがよくわかります。



客殿 漆喰とガラス窓の外観



裏山から母屋を望む



大庄屋記念館 玄関

歴史文化遺産の長島家住宅

長島家住宅は、面積が3,718㎡の敷地が石垣によって上段・中段・下段に区画され、雛壇状に石垣が並んでいます。下段には管理棟（受付事務室）があり、中段には母屋・客殿・土蔵、上段には納屋・物置があります。中段と上段の間には帯状の段があり、地神の社があります。また母屋の表座敷の前、客殿の前、さらに母屋と客殿の裏、など、3箇所庭園があります。

石造りの施設に注目すると、下段から中段にあがる母屋の玄関に続く登り石段、中段の土蔵前から上段の納屋まで一直線に伸びた登り石段があります。また外蔵の前には防火用水を兼ねた長方形の石積みの池があります。

特に屋敷の東側の谷川に沿って高さ10mもある石垣が積まれています。石垣には日本の伝統である隅角部がなく、緩やかなカーブを描いて石垣が曲がっています。これは西洋風の石垣のような珍しい石垣工法で、明治期に築かれたものです。さらに谷川には谷底が掘れないように石材を敷き詰めた床固工法を採用しています。またこの谷川のすぐ上流には砂防堰堤があります。石積み技法で作られた大正期の堰堤です。

長島家住宅の価値

長島家住宅の価値は次の3点です。第1に丘の高台に築かれた石垣と土塀で囲まれた屋敷全体の景観が大庄屋の風格を大変な迫力で伝えていています。第2に幕末・明治・大正に使われた建物が現代の改修を受けずに保存されており、豪農の生活空間をよく伝えていています。第3に屋敷内外を形成する石垣や屋敷内の登り石段、谷川の床固め工法や堰堤などは近代土木遺産として大変貴重なものです。



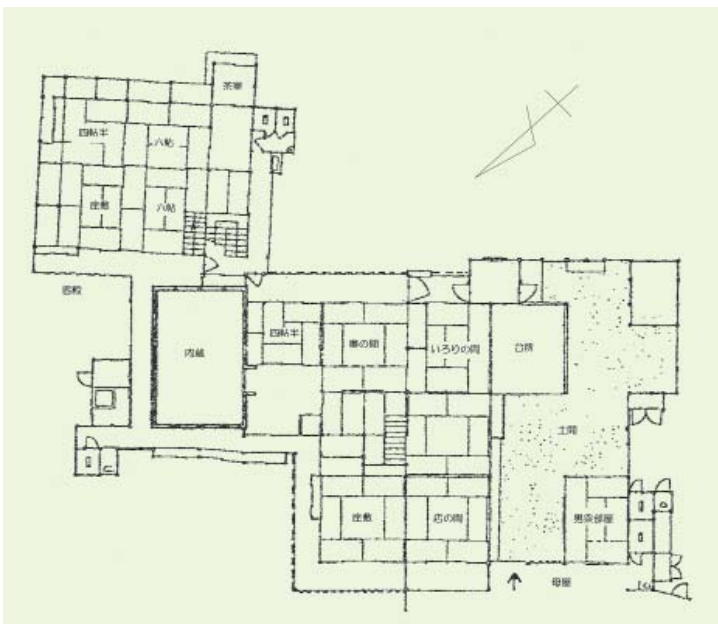
母屋の表座敷 外側



母屋の表座敷 内側



客殿二階 15畳の大広間



部屋の間取り図



お城のような高い石垣

客殿を飾る襖絵と書

1) 小林礫川の絵

小林礫川は天保4年(1833)に江戸で生まれました。本名は小林謹之助、画号は延安で、高柳村に住み、明治37年(1904)に72歳で没しました。養父市を代表する画家です。襖3面に太公望図、明治30年に書かれた襖4面の山水図があります。印は「延安藤印」「亀游軒」と刻みます。人物の表情にはユーモアがあります。

2) 池田草庵の書

池田草庵は文化10年(1813)に宿南村に生まれました。弘化4年(1847)に青谿書院を開塾し、明治11年(1878)に66歳で没しました。池田禎蔵や池田緝と名のりました。日本を代表する儒学者です。門人には東京大学総長を務めた浜尾新、京都府知事として活躍した北垣国道、文部大臣を務めた久保田讓などがいます。書に「丁初冬感懐 緝書」の文字があることから安政4年(1857)または明治元年(1867)のものでしょう。

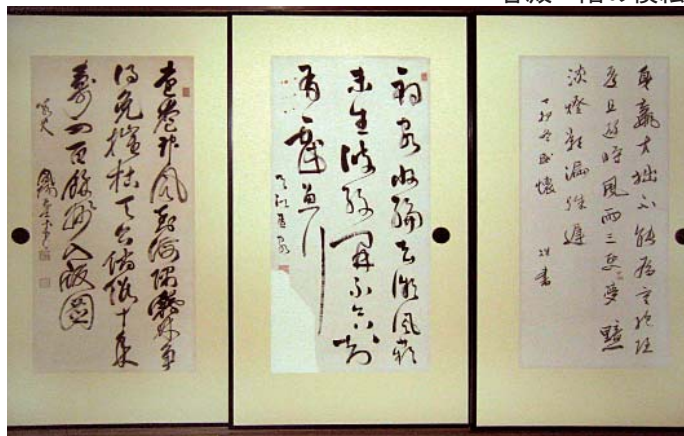


3) 北垣国道の書

北垣国道は、天保7年(1836)に養父市能座に生まれました。池田草庵に師事し、その後、明治維新では鳥取藩士として倒幕運動に活躍しました。明治14年(1881)に京都府知事に就任、その後は北海道庁長官を勤め、男爵となりました。大正5年(1916)に81歳で没しました。書には「静屋書」の署名があり、印には「北垣国道」と刻まれています。



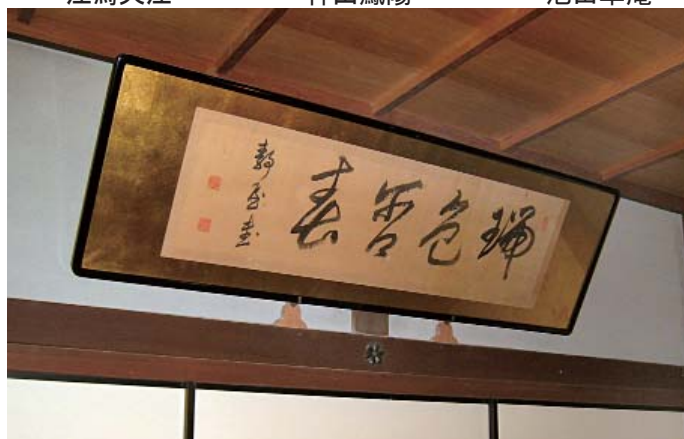
客殿一階の襖絵



江馬天江

神山鳳陽

池田草庵



北垣国道 瑞色香春

織部灯籠

茶室の前に織部灯籠が立てられており、茶人愛好の灯籠として完全な形が残っています。但馬の織部灯籠は、旧豊岡市に5基、旧出石町に2基、旧朝来町に1基の合計9基あります。大変珍しいデザインの灯籠です。

織部灯籠は千利休の弟子にあたる古田織部が考え出したと伝えられ、茶室の灯籠として愛好されました。さお(柱状の土台の上部)の部分がわずかにふくらんで十字形になり、下部に立像が刻まれていることから、キリシタン灯籠とも呼ばれます。



一意の書

中島皓象は、大正14年に養父市建屋で生まれました。書は「一意心を同じうして意を一にす 紫野 皓象」と書いてあります。

一意専心、一意直到。一つのことに心を用いる、思ったままを偽らずに飾らないという意味があります。昭和63年に一致団結してまちづくりを進めてほしいという願いを込めて養父町役場に寄贈されたものです。





中の中から台所を見る



洗濯



繭かき

人形作家 内海みさ子さんの作品

内海さんは養父市八鹿町で活躍した人形作家です。渡辺うめさんと共に但馬を代表する人形作家として活躍されました。平成2年全国手芸コンクール特別賞を受賞されています。

但馬牛や蚕の世話に明け暮れた農家の生活などを人形で写實的に再現されています。懐かしく楽しかったふるさとの生活体験が人形作品となっています。家族が力を合わせた仕事の様子や昭和20年代の養父市の生活が精巧に表現されています。



大庄屋記念館 建物配置図

長島家住宅の案内

高い石垣の上に浮かぶように建てられた長島家は、二階建ての母屋、内蔵、客殿が並ぶ大きな屋敷です。いずれも二階の柱を壁に塗り込めた大壁になっています。母屋は幕末から明治期、客殿は大正期の建築様式をよく表し、明治・大正の暮らしぶりを今に伝えます。



昭和初期の長島家住宅

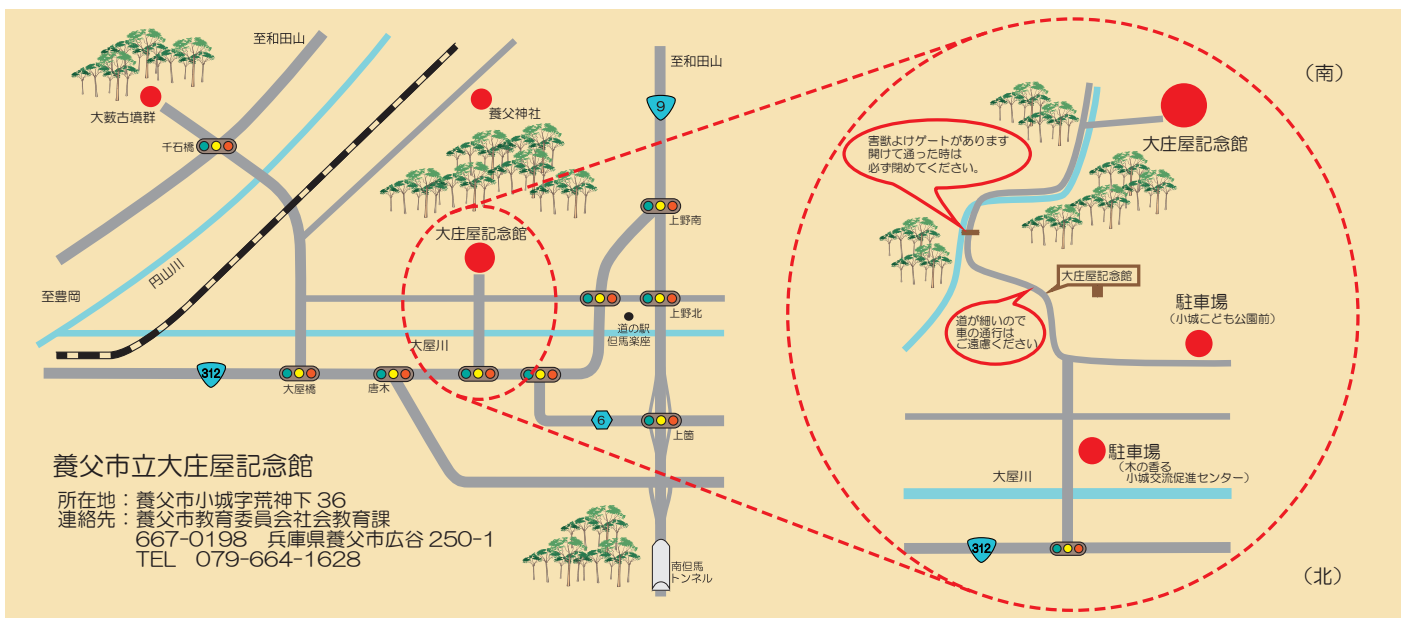
大庄屋記念館の概要

敷地：3,718㎡

建物：892㎡〈母屋・客殿・土蔵など〉

居宅：部屋数21・風呂2・便所5

納屋2棟、倉庫、土蔵3棟、土塀、門5棟



養父市立大庄屋記念館

所在地：養父市小城市荒神下 36
連絡先：養父市教育委員会社会教育課
667-0198 兵庫県養父市広谷 250-1
TEL 079-664-1628